

## 金沢駅東広場整備事業

新しい伝統の創造を目指して

鈴木良樹

SUZUKI Ryoki

株式会社トデック 技師長



### 1—はじめに

金沢駅東広場は市内最大の交通ターミナルで、兼六園等の歴史的景観が残された伝統文化に息づく市街地中心部に面しており「伝統の広場」「歩行者優先の広場」として位置づけられている。駅東広場に求められる整備課題は以下のとおりである。

- ①金沢市は人口45万人を有する都市としては世界でも数少ない多雨多雪都市であり、この気候風土に対して、もてなしの動線、思いやりの機能処理が求められる。
- ②戦災を受けていない金沢市内には、ほぼ400年にわたる歴史的財産が点在し、歴史的重層都市を形成している。このような都市の顔として、金沢に調和し歴史の試練に耐えうる現代のデザインと先端技術の表現が求

められる。

- ③金沢では様々な文化財が鑑賞や装飾のためだけでなく、生活工芸として市民生活の中に溶け込んでいる。駅東広場計画は歴史的エリアの玄関として「現代の生活芸術の舞台」を創り、伝統を継承しながらも未来を誘発させる計画である必要がある。

### 2—計画の特徴

金沢駅東広場は全体面積 27,000m<sup>2</sup>、地上広場19,400m<sup>2</sup>、地下広場10,550m<sup>2</sup>の規模で、平成17年3月に完成した。計画の特徴は、次に示す三点である。

#### ●1 ユニバーサルデザインの徹底

第一点目は高齢者・障害者に配慮した施設整備である。大屋根（もてなしドーム）や乗降場シェルターにより駅利用者を雨や雪から守り、タク

シーや一般車の乗降場には段差をもうけない。駐車場は車椅子を運搬するST (Special Transport) 車や障害者用のスペースを確保する。広場内の上下の移動にはエレベータやエスカレータを主要通路に配置するとともに、音声誘導や点字サインにより安全に誘導する。そのほか、LED（発光ダイオード）やPDP（プラズマディスプレイパネル）表示を用いて聴覚障害者に対しても安全な誘導を確保する。楕円形のバスターミナルはバスの軌跡に沿って乗り場が切り込まれており、バスの正着を可能にし、安全で楽な乗降ができる。

#### ●2 環境との共生

第二点目は環境に配慮した施設整備である。乗降場シェルターの屋根には建材一体型のアモルファス太陽

電池を敷設し、地下広場の照明等に当てる。発電能力は約110kw、年間発電量は83,000kwである。大屋根の雨水を貯留し濾過した後、トイレの洗浄水や地上植栽の散水に再利用する。これにより駅広場での年間使用水量約7,000tの内66%をまかなえる。地下広場まで十分な太陽光が差し込むようライトコート（採光のためにつくられる中庭）や円形開口部を設ける。

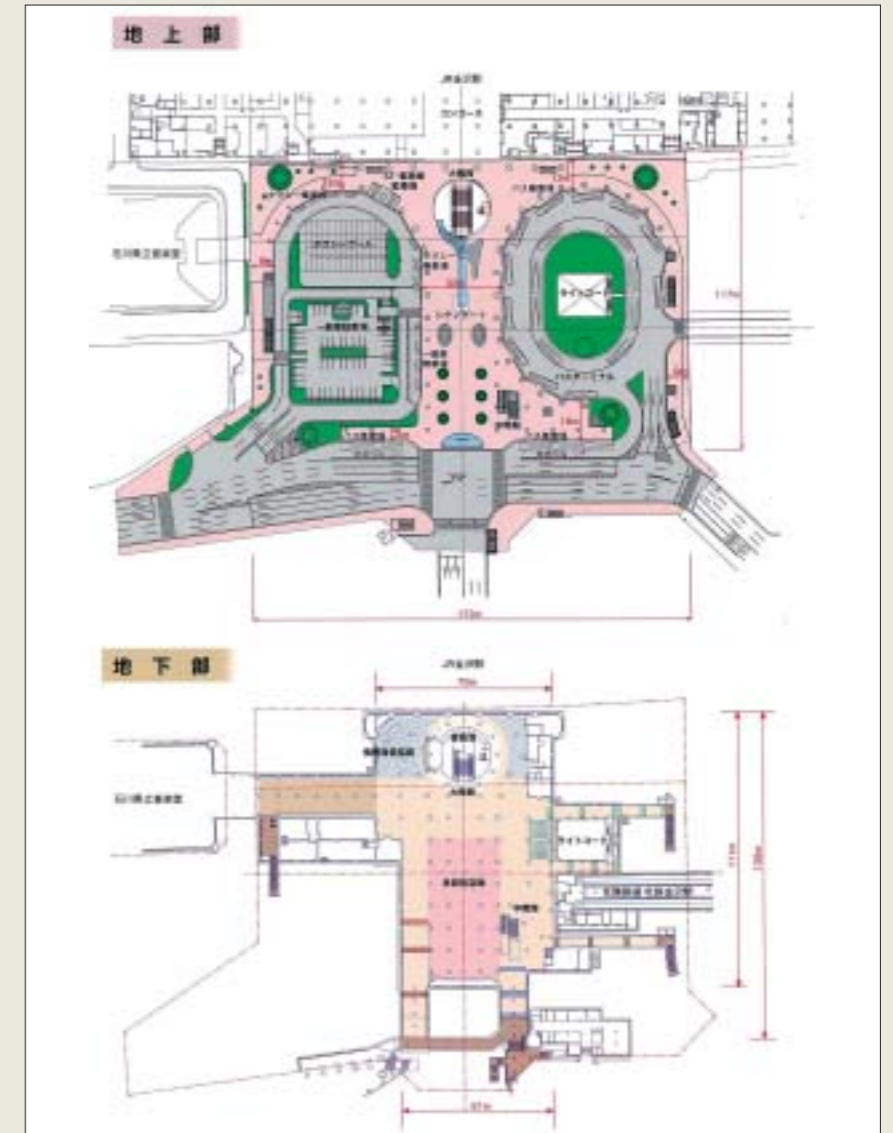
#### ●3 交流と賑わいの拠点

第三点目は駅周辺地区の交流と賑わいを創出するための拠点とすることである。広場を多目的空間として活用するために、隣接する「石川音楽堂」との連携を図り、地下部に文化交流スクエアを一体的に計画し、各種情報を発信する情報コーナーを設置する。情報コーナーには50インチ12面のDLP (Digital Light Processing) 方式マルチビジョンを始め、インターネットにより情報検索が行えるアクセスコーナーを設置する。

### 3—地上広場計画

地上広場は「歩行者優先の広場」の実現として、充実した歩行者空間の確保とバリアフリーの徹底を掲げ、広場中央を歩行者に開放した「工（たくみ）型広場」を計画した。

中央部の歩行者空間は、幅35m長



■図1—地上広場と地下広場の平面図

さ110mの大空間で、地下への階段やエレベータ、総合交通案内所、植栽等を配置し、上部には金沢らしさの表現としてそれらを覆う大屋根（も

てなしドーム）を架ける。また大屋根の正面には都市の門を表現する木造のシティゲート（鼓門）を設置する。交通施設は歩行者広場をはさんで



■写真1—広場全景



■写真2—広場夜景



■写真3—大屋根内部から望むシティゲート



■写真4—広場正面の噴水と噴水時計





■写真5—地下多目的広場



■写真6—池と滝がある地下階段付近

北側にバスターミナル、南側にタクシー乗降場及びタクシープールと一般車乗降場及び駐車場を配置する。各乗降場へは車道を横断しないで全てアクセスできる構造となっており、上部には利用者を雨雪から守るシェルターを連続して配置する。

#### 4—地下広場計画

地下広場は多雨多雪地域の金沢市において、重要な歩行者動線となる。構造はSRC(鉄骨鉄筋コンクリート)地下1階建てで、中央の大規模な広場空間からは、駅周辺の5方面に通じる地下通路を計画する。また、広場と一体的に整備された北陸鉄道浅野川線金沢駅と直接接続する。

広場の中央には交流の拠点となる多目的広場を、石川音楽堂との接

続部分には情報コーナーを配置する。そのほか、トイレや広場全体の防災と設備管理を行う中央監視室を設置する。できるだけ自然に近い地下広場を実現するために、地上の流れから連続した滝と池の設置や大きなライトコートを計画し、地上から光を取り入れる。

#### 5—大屋根～思いやりの動線のシンボル～

- ・規模：建築面積約3,000m<sup>2</sup>、最高高さ29.5m
- ・構造：張弦材ハイブリッド立体トラス
- ・仕上げ：強化合わせガラス

大屋根は金沢の気候風土に対し、人々が集う広場の上に傘を差し出すような「もてなしの心・思いやりの動線」を表現したものである。

大屋根の構造は耐久性、メンテナ

ンス性などに配慮してアルミ合金を構造材とし、安全性や省資源を考慮して張弦材ハイブリッド立体トラス構造を採用している。この構造の特徴は屋根だけでなく、壁面まで立体トラスを採用していることである。地震力に対し立体トラスを補強するために、様々なケーブルが内部に使われている。特に中央部では放射状に吊りケーブルが集まり、内部を星形のロッドで補強したテンションリングが形成され、リングの4か所から四方に突き出された束により大屋根を支えている。

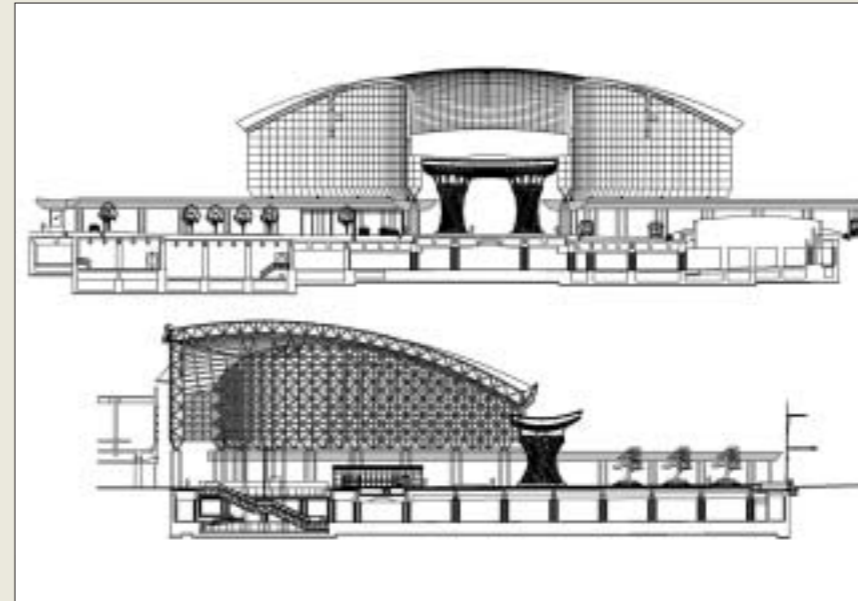
明るい駅前広場を実現するために、大屋根の仕上げは全てガラスである。屋根と壁をあわせて全部で3,019枚の強化ガラスが使われている。このガラスは180cmの積雪にも耐える強度をもっている。ガラ



■写真7—地下情報コーナー



■写真8—通路ごとに特徴をもたせてある地下通路



■図2—正面と側面の立断面図



■写真9—大屋根内部(上部手前はテンションリング)



■写真10—大屋根(手前右は太陽電池を組み込んだ乗降場シェルター屋根)



■写真11—駅通り線からの駅東広場

スの掃除は清掃ロボットが自動的に行う。

#### 6—シティゲート(鼓門)～金沢の伝統を凝縮～

- ・規模：通路幅7.5m、最高高さ13.7m  
屋根面の大きさ22.6×12.5m

・構造：米マツ集成材大断面木造  
駅東広場のデザインは機能美・技術美を基本として、時代の最先端の技術を用い新しい伝統を造り上げている。その中で鼓門は、直接的に伝統を感じることもできる木造とし、加賀宝生で使用される鼓の胴にある「調べ緒」をモチーフにデザインをしている。都市の門として「歴史のまち金沢」の格調を伝えるとともに、大屋根の雪受け、地下広場の換気塔、大屋根雨水のパイプスペースなどの役割も果たしている。

#### 7—おわりに

平成17年3月20日に完成式が行われ、翌日は地下で様々なイベントが開催されるなど、たくさんの人で賑わった。金沢市では駅東広場と中心部に平成16年10月に完成した「金沢21世紀美術館」を結ぶルート「アートアベニュー」とし、中心市街地の活性化を目指している。金沢駅東広場は、まさにその起点にあたる。本設計は今までにない駅前広場のあり方を提案し、駅とまちづくりのありように一石を投じたものである。